

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001286		
法人名	社会福祉法人 みのり会		
事業所名	グループホーム 照日ヶ丘		
所在地 (電話番号)	福岡県築上郡上毛町安雲585-44 (電話) 0979-84-8080		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月27日	評価確定日	平成22年6月14日

【情報提供票より】(平成22年3月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	13.7 人

(2) 建物概要

建物構造	耐火建築 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 65 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかの内科消化器科クリニック、筒井歯科、大川病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム照日ヶ丘は、のどかな田園地帯と緑が広がる豊かな自然に囲まれた平屋造り、2ユニットを有する事業所である。職員が敷き詰めた枕木からなる前庭を歩き、玄関を開けると左右に各ユニットがある。室内は、全体的に明るく、「施設的な直線」を基調とした造りではなく、一般家庭を思わせる「居室配置」、即ちプライバシー空間を確保した造りとなっている。各居室には、一人ひとりの好みや、これまでの暮らしがうかがえる調度品が持ち込まれ、「個の暮らし」、「普通の暮らし」の実現を目指す事業所の姿勢を実感する。裏庭には広大な芝生が広がっており、行事や日々のレクリエーションで活用されるという。また母体法人が古くから運営する介護老人福祉施設やショートステイ棟等が隣接し、各事業所が連携を図りながら、地域に根ざした運営を行なっている。その為、介護経験豊富な職員が多く見られ、重度化にも対応出来、「出来る限りグループホームにいたい」という入居者・家族の願いの実現に努めている。法人の各事業所と一体となり、家族、地域と、常に連携を図りながら、入居者一人ひとりの思いの実現、豊かな暮らしの支援に努めている、今後の展開が期待される事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善課題としては、主として「運営推進会議の2ヶ月に1回の定期開催の実施、入居者の生活歴等の把握、日々の気付きの記録等を通しての思いや意向の更なる把握、入居者情報の整理・更新を通しての介護計画への反映、等が挙げられる。全体的に職員間で話し合いが持たれ、検討されているようだが、具体的に明確な変化には至っていないように見受けられる。現在は、改善途上の段階にあるように思われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、評価の意義を理解し、昨年の指摘事項についても、業務に活かしながら改善に努めている。また自己評価の内容についても、職員は、事業所の抱える課題を明確に認識していることが確認出来る。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の主な内容は、地域との連携を始め、年度の総括として、制度改定の説明、重度化への対応、利用者のニーズや入退院・事故等の状況報告等が見られる。以上について、職員とのヒアリングや記録から、特に、行事や防災面で地域連携が図られていることや、重度化への対応に努めていることが確認出来た。しかし、2ヶ月に1回に定期開催には至っておらず、4ヶ月に1回の実施状況である。2ヶ月に1回の定期開催を期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>玄関に意見箱を設置したり、面会時には、積極的にコミュニケーションをとり、何でも気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。出された意見についても、全職員で話し合い、結果を家族に報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買物時に挨拶を交わしたり、近隣住民が気軽に遊びに来れるよう働きかける等、日常的なつきあいを大切にするとともに、地域の行事・学校行事にも積極的に参加している。また例年地域の方を大々的に招いて開催される「ふれあいの集い」は、地域に根付いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの趣旨を踏まえた6つの柱からなる独自の理念を作り上げている。6つの柱には、「普通の暮らし」、「共同生活を通じて」、「認知症の理解」、「家族との信頼関係」、「関係機関との連携」、「地域との交流」等のキーワードが見られる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念の6つの柱には、それぞれ解説が付けられ、職員間でより分かり易く、共有出来るよう工夫されている。また年間研修計画の最初のテーマに位置付けられ、理念の浸透が図られている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	散歩や買物時に挨拶を交わしたり、近隣住民が気軽に遊びに来れるよう働きかける等、日常的なつきあいを大切にするとともに、地域の行事・学校行事にも積極的に参加している。また例年地域の方を大々的に招いて開催される「ふれあいの集い」は、地域に根付いている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	職員は、評価の意義を理解し、昨年の指摘事項についても、業務に活かしながら改善に努めている。また自己評価の内容についても、職員は、事業所の抱える課題を明確に認識していることが確認出来る。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	年度始めに計画を立てているが、2ヶ月に1回の定期開催には至らず、4ヶ月に1回の実施状況である。利用者や運営状況等について報告している。		2ヶ月に1回の定期開催を期待したい。内容については、事業所内部で、意見交換だけでなく、利用者が参加し易い形態での実施の意向もあり、その実施を期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	役場の担当者とは、事業所の現状等について話したり、気軽に相談出来る関係が築けている。また地域の情報等についても、提供を受け、サービスの質の向上につなげている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	実際に、成年後見制度を活用されている方もおり、職員間でも制度について周知されている。また必要に応じて、資料等を活用し、入居者への説明を行なっている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者は近隣の方が多く、家族の面会は定期的に頻繁になされており、その都度、口頭で報告している。また日々の暮らしぶりを写真に撮ったアルバムを一人ずつ作り、面会時に見てもらっている。健康状態の変化等については、臨機応変に連絡している。金銭管理に関する報告は、4ヶ月に1回行なっている。		面会を待つという姿勢に止まらず、事業所から「便り(通信)」を出す等、積極的な情報発信を期待したい。
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に意見箱を設置したり、面会時には、積極的にコミュニケーションをとり、何でも気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。出された意見についても、全職員で話し合い、結果を家族に報告している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、馴染みの職員による支援の重要性を認識し、各ユニットで職員を固定化している。止むを得ない離職の場合にも、引継ぎ面で配慮を行い、入居者へのダメージの軽減に努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、ハローワークを通して公募しており、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。職員についても、一人ひとりを尊重し、個々の能力が業務に反映出来るよう配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	プライバシーや個人情報保護、虐待防止等、具体的に人権に係わる研修を計画的に実施するとともに、日々の業務の中でも人権の尊重について意識的に取り組んでいる。一部の書類の中には、現状として適切ではない表現も残っており、改善を期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	母体の法人が運営する介護老人福祉施設と連携しながら、研修、合同の行事、ミーティング等を通して、職員育成が図られている。研修計画も作成されており、特に新入職員に対しては、外部研修参加を促している。		自己評価では「研修計画はない」と評されているが、研修計画は作成されている。しかし、報告書が確認出来なかった。研修を、より効果的なものとする観点から、報告書の作成を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホームや小規模多機能と、必要に応じて情報交換は行っている。しかし、組織的なネットワーク構築には到っていない。同一法人内の他サービス事業所の職員とは、日常的に交流もあり、情報交換出来る関係にある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	最初に、本人や家族の見学を行い、実際に雰囲気を感じていただけるよう努めている。その際に、理念や、サービス内容等を説明している。また利用に不安がある場合には、職員が朝迎えに行き、夜送る等を1週間程行い、その間、様子を見ながら、徐々に馴染める工夫を行い、納得・安心してからの利用に努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者に対し、「人生の先輩である」という意識を常に持ち、普段の暮らしの中で、入居者の生活暦や得意分野が活かされる一人ひとりが「主人公」となれる場面作りを行い、そこで職員も学んでいる。室内には、入居者の手による活花が飾られ、書道の得意な方が書いた献立が見られる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日頃の会話や何気ないくさ、ふるまいの中から、思いや意向に努めている。困難な場合には、家族からの情報を得たり、日常の気付きの中から、本人本位の検討している。		アセスメントツールは、ADL中心となっており、困難なケースを踏まえ、生活暦等の把握をより充実したものにすることを期待したい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の思いや要望をもとに、日々の気付きから得た職員の意見や看護師、栄養士等、必要に応じて関係者の意見を反映させた介護計画を作成している。会議録からは、本人・家族の出席も確認出来た。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の見直しに「については、基本的には6ヶ月に1回実施し、状態変化が生じた場合等、その都度、必要な関係者と話し合いながら、臨機応変に対応している。また見直しの際、活用し易いように、日々の記録は、個別に詳細に書き留められていることが確認出来た。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	受診や買物、墓参り、法事、馴染みの理美容院の送迎等、求めに応じて、柔軟に個別対応している。また同一法人運営の隣接施設(介護老人福祉施設等)の行事への参加や、日常的交流も図られている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診・往診が継続して行なわれるよう支援している。かかりつけ医が遠方等、困難な場合は、本人・家族と話し合いながら、既往歴等から判断し、対応可能な医療機関を紹介する等、本人本位の適切な医療が受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本人や家族の意向を踏まえ、主治医の指示を仰ぎ、関係者と連携を図りながら、方針を共有し、随時、本人、又は家族にも説明を行ないながら、重度化・終末期に向けたケアに努めている。現在、重度化支援の事例もあり、実際の取り組みも確認出来た。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシー、個人情報保護と2回に分けて研修を実施し、独自の資料も作成する等、その周知を図っていることがうかがえる。記録物も鍵付の書棚に適切に保管されている。また入居者に対しての言葉づかいについても、「人生の先輩」であるということを念頭に、尊厳を傷つけることのないように努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の生活歴を考慮するとともに、その日の意向や、一人ひとりの状態やペースに合わせた暮らしを支援している。実際に、起床・就寝・食事時間についても、各自のペースを尊重している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は、隣接の同一法人の介護老人福祉施設で調理されたものが運ばれてくる為、入居者と職員は、盛り付けや、後片付けを一緒に行なっている。職員は持参した弁当で、入居者と食卓を共にし、和やかな雰囲気作りに努めている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に、週に、2～3回、午後に実施している。入浴拒否が強い方については、声かけやタイミングを工夫しながら、また単独での入浴を希望する方については、安全面に配慮しながら実施する等、一人ひとりの希望や状態に応じ、ゆっくりと入浴出来るよう努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの生活歴や趣味・特技を日常生活の中で活かせるよう支援している。室内には、入居者が活けた生花や、書道が得意な方が書いた献立が見受けられる。また入居者と相談しながら、おやつ作りや、季節の花見等のドライブ、スーパー等への外出、外食等を行ったり、犬を飼ったりと楽しみごとの創出に努めている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者のその日の希望や、状態に応じて、地域のスーパー、商店、道の駅等、また外食に出掛けている。また弁当を作って戸外で食事したり、事業所裏手に広がる芝生で、食事やレクリエーションを楽しむ等の支援を行なっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、日中、施錠することの弊害を理解しており、玄関にはタッチ式自動ドアを採用し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全面の配慮については、さりげない見守りを職員間で徹底する等の配慮を行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を仰ぎながら、避難・消火訓練、及び夜間想定訓練を定期的(年2回)に実施している。室内にはスプリンクラーや防火カーテンが完備されている。また地震に備え、非難場所や備蓄の確認、及び周辺の地盤の地質検査を行なう等、万全を期している。周辺住民にも協力依頼をし、話し合いを行なっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立については、栄養バランスや、入居者の好み・状態を考慮し、栄養士が作成している。また食事が困難になった方については、看護師とも相談しながら、その方の状態に即した形態で提供している。食事・水分量についての確認も、その都度実施しており、適切量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 照日ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	室内は「施設的な直線」を基調とした造りではなく、一般家庭を感じさせる、「程よいプライベート空間」を施した造りとなっている。天井は吹き抜けで明るく、掘り炬燵のある和室やウッドデッキ等、くつろげるスペースも確保されている。台所はリビングに面し、調理風景を五感で感じられる造りとなっている。また季節の花や飾りが潤いを与えている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には、仏壇や使い慣れた調度品が持ち込まれている。またミシン等、一人ひとりの好みや趣味、生活歴をうかがわせるものが、随所で見られ、本人本位の居室作りがなされていることが確認出来る。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			